

高学年の先生のための NIE ガイド

はじめに

平成 23 年度完全実施になった小学校学習指導要領では、国語科の言語活動例として「新聞を作ること」や「新聞を読むこと」が挙げられ、国語以外でも積極的に新聞を活用していくことが盛り込まれています。全国で新聞を活用した授業＝NIE がスタートし、私の勤務するさいたま市でも市教委が県の NIE 推進協議会と提携し新聞が使いやすくなるなど、市内全小中高・特別支援学校で NIE が始まりました。しかし、これで果たして NIE の利点を生かした実践が十分に広がったといえるのでしょうか。

答えは否だと思います。教科書に新聞を活用した内容が盛り込まれることで、どの児童も新聞に触れながら授業を受けられるようになったことは大きな進歩です。しかし、肝心な新聞活用の日常化の動きが少ないように思います。ともすると、新聞を授業で扱うのは該当する単元の授業の数時間だけということになりかねません。それを裏づけるように、全ての学校で NIE がスタートしたはずさいたま市でも「NIE」という言葉すら知らない先生もいらっしゃいます。また、私の勤務校でも、NIE を提案し実践をしていただくように研修をしているのですが、先生方の積極的な実践までは進められていません。

ある社会科の研修会でこんな質問が上げられたことがあります。
「最近、言語活動として新聞作りを取り入れることが推奨されていますが、子どもも嫌がりますし、作成するのに時間数も足りません。」
これに対して、その研修会の指導者は、
「新聞作りだけが表現方法ではありません。いろんな形の表現方法を取り入れたらいいですか」と指導されました。

一昨年から朝日 Teachers' メールに「低学年先生用 NIE ガイド」「中学年先生用 NIE ガイド」を連載させていただきました。今回、「高学年先生用 NIE ガイド」を執筆するにあたり、これから NIE を本当の意味で全国の学校全体に広げられるのかという視点で、さまざまな提案をしていきたいと考えています。

今後さらに N I E を全国的に広めていくために、以下の 2 点が重要なのではないかと考えています。1 つは、N I E を日常化する仕組みを作ることです。新聞が指導要領に盛り込まれた趣旨を生かすには、新聞を日常的に扱う必要があります。国語の教科書に新聞を活用した単元が盛り込まれましたが、それだけでは児童が新聞に日常的に触れるようにはならないと思います。日常化の仕組みの例として、NIE に関するシラバス（指導計画）の作成や授業以外での N I E タイムなどの時間を設ける取り組みなどが挙げられます。

指導計画は多くの先生に NIE を実践してもらうために評価の観点とともに必要と考えます。なぜ NIE を取り入れるのか、そして NIE としてどんな活動をするのかを明確にした上で、それをどのように評価するのかを考えることが大切だといえます。

2 つ目は、先生自身が新聞に親しむ機会を作ることです。教科書に新聞に関する単元が

採り入れられても、指導をする先生が新聞を読んでいないようでは効果的な指導はできません。新聞を扱った単元でも、単に教科書をなぞるだけの授業になってしまう可能性もあります。しかしながら、多忙な毎日を送る先生が 1 日にどのくらい新聞を読む時間をとれるかということも考えなければなりません。

こういった問題を克服するためにも、各新聞社が取り組んでいる NIE 活動を利用して情報を得る方法や、学校に NIE に携わる部会を作り、他の先生方への情報発信をすることを提案していきたいと思います。各新聞社は教育界に大変積極的に情報提供をしています。これをうまく使わない手はありません。活用するにはコーディネーター的な役割を担う先生がいるとさらに活用しやすくなります。そのような組織案についても提案する予定です。

現学習指導要領では、新聞の可能性を十分に認め、言語活動の一環として積極的に取り入れています。そして、指導要領の改訂の基本方針には、言語活動の改善のための留意事項として次の 3 つのことを述べられています。

- ① 教科の教科書において、言語に関する能力を高めていく工夫を凝らすこと
- ② 読書活動の推進
- ③ 学校図書館の活用や学校における言語環境の整備の重要性
 - ・言語に関する能力の育成に当たっては辞書、新聞の活用、図書館の利用などについて指導し、子どもたちがこれらを通してさらに情報を得、思考を深めることが重要

特に③では新聞の活用を言語に関する能力を伸ばす上で重要視しています。このねらいが十分に達成できるように、新聞の活用について考察していきたいと考えています。

新聞記事は主に、「見出し」「リード（前文）」「本文」で構成されています。そして重要な事柄なほど前のほうに書かれたり、5W1H を基本に書かれていたりするなどの特徴があります。このような特徴のある新聞記事を読み解いていくことは、論理性を養うのに最良の教材であるといえます。また、記事の書き方を参考に、自分自身の書く力を養うこともできます。新聞は国語力を向上させるまさに総合的な教材であるといえます。

また、新聞の記事には人々の関心事が話題として取り上げられています。それらを積極的に活用して授業内容を活性化させることによって、社会の中の様々な事象への児童の興味関心を高めることができます。そして自分なりの考えを持つこともでき、考える力を養うこともできます。新聞は過去や現在の事実を通して未来を見つめることができる素材です。それによって児童生徒の意欲もわいてくると確信しています。

本書が、学習指導要領に盛り込まれた新聞活用をもう一度見直し、新たな視点で新聞のよさや活用の仕方について考える契機になればこれ以上の喜びはありません。未来の子どもたちのために、新聞が大いに活用されるのを願ってやみません。